

# 情報ボックス



## 装具（体幹、下肢装具）について

### 1、装具とは

一般的に装具とは、ケガや病気による痛みなどや損傷などに対し、治療やリハビリ、矯正を行う器具のことです。肢体不自由のある子どもの場合には、手足・体の機能障害の軽減を目的として使用する補助器具として使用します。装具の種類は、「体幹装具」「上肢装具」「下肢装具」「頭部保護帽」があります。今回は、本校の子どもたちが主に使用している「体幹装具」「下肢装具」について紹介します。

### 2、体幹装具とは

一般的に体幹装具とは「頸椎装具」、「胸腰椎装具」などの、首から腰に装着する装具のことを言い、体重を支持して痛みを軽減させたり、姿勢を維持したりするために使用されます。

本校の子どもたちは、側わん（背骨が横の方に曲がる状態）がある場合に側弯矯正装具（プレーリーくん）を装着して学校生活を過ごしていることが多いです。以下に側弯矯正装具（プレーリーくん）について紹介します。

#### （1）側弯矯正装具（以下：プレーリーくん）について

プレーリーくんは、神経・筋原性の脊柱側弯変形に対して、無理のない緩やかな矯正を目的に2007年に大阪発達総合療育センターで開発された体幹器具の名称です。



#### （2）装着に際してのポイント

- ①ベルトは骨盤部分から順番に側弯を修正しながら締めていきます。
- ②ベルトの締め具合は、仰向けで指一本がスムーズに入る程度で締めます。
- ③一番下のベルトは上前腸骨棘しょうぜんちようこつきよくにかからないようにします。



#### （3）装着時の注意点

- ①「痛がっていないか」、「装具のあたる場所が発赤していないかどうか」、「苦しそうにしていないか」、「機嫌が悪いのか」、「便秘・下痢・嘔吐などがいないか」等の状態を確認してください。
- ②食事の時にはベルトをゆるめてください。
- ③時間が経つと「プレーリーくん」がずれることがあります。頭側の方にずれたり、支柱が後ろに回旋したりすることがあるので、最初につける位置を確認して、装着しなおしてください。
- ④装着して、なんらかの異常があれば「プレーリーくん」をはずして、医療機関を受診してください。

引用 HP : <http://prairie-kun.osaka-drc.jp/usage.html>

<http://www.physiotherapist-osk.or.jp/data/pdf/O4%20sougu.pdf>

### 3、下肢装具

一般的に下肢装具とは股関節から足先に装着するものをいいます。この装具も「股装具」や「膝装具」といった具合に、身体の部位ごとの装具があります。位置を固定したり、動きを制御したりといった機能を持ちます。ここでは、本校の子どもたちが主に使用している下肢装具の種類と機能を紹介します。

#### (1) 股関節外転装具

両股関節を外転方向に広げ股関節の脱臼やはさみ足などの予防、矯正を目的とした装具です。

股関節外転装具（金属支柱付き）		股関節外転装具（クーくん）	
-----------------	---	---------------	---

#### (2) 短下肢装具

短下肢装具の目的は関節の柔軟性低下や変形の予防、運動機能改善（立つ歩く時の姿勢が安定する等）、姿勢が良くなることで二次的に筋肉が働きやすくなるなどの効果があります。

種類	機能
金属支柱付き短下肢装具 （両側支柱型）	 立つ、歩くなどで足に過剰な力が入ってしまい、つま先を伸ばした状態になったり、つま先立ちになり、かかとが地面に着かなかったりする状態で使用します。メリットとしては、強度が強く、通気性が良い点があります。デメリットは、重いことです。
プラスチック短下肢装具 （シューホン型）	 足首に過剰な力が入ったり、つま先を伸ばした状態になったり、立つとつま先立ちになるなどの状態で使用します。また、つま先を上上げる筋肉が麻痺し、足首に力が入らず、立つと不安定になる状態でも使用します。メリットは、軽い、外観が良い、靴の中に履ける、汚れにくい、装着が簡単という点があります。デメリットは、通気性が悪く、修理困難ということがあります。
靴型装具	 足首に力が入りにくく、立つと足首がぐらぐらするなど状態で使用します。メリットは、短下肢装具と比べ動きやすいことや外観が良い点があります。デメリットは、重いことです。

#### ① 正しく履くために大事なポイント

・きちんとかかとを奥までしっかり入れてください。麻痺の状態により、かかとが入りづらい場合には、膝をまげた状態で履くと筋肉がゆるみ、足が曲がりやすくなります。

- かかとをしっかり奥に入れたら足首のベルトをしっかり締めましょう。このベルトがゆるむとかかたがずれやすくなります。

装着の仕方が良くないと歩きにくかったり、足を傷つけてしまうことがあります。  
 装具は正しく装着しましょう。

**装着時のポイント!**

かかとをしっかり奥まで入れます。  
 ※かかたが入りにくい時は、膝を曲げた状態で入れると入りやすくなります。



最初に足首の関節に近いベルト①から締めてください。  
 次に②、③のベルトをしめます。  
 ②、③はどちらが先でも構いません。  
 ※最後にもう一度①のベルトをしめ直す事でかかたがしっかり止まります。



引用 HP : <https://kawamuragishitokyo.wixsite.com/blog/post/>

② 短下肢装具使用時に気をつけること

- 下肢に麻痺がある場合は、圧迫・痛みを感じにくいことがあるので使用後に指先・足の甲、裏、かかと、すねなどに発赤、傷等がないか確認してください。
- ベルト、継ぎ手、支柱、ねじ部、底材等が摩耗、破損していないか確認してください。



- 正確に装着することで効果があるので、わかりにくい場合は保護者、かかりつけ医療機関に確認してください。

引用 HP : <https://www.kmw.ac.jp/contents/artificial-prosthetist/type>

<http://www.physiotherapist-osk.or.jp/data/pdf/O4%20sougu.pdf>

